

令和7年度 [果実の概況]

本年の果実は、みかん、りんご等、10~11月の産地の高温の影響を受け着色の遅れが見られますが、年末に向けて順調な出荷の見通しです。好天の影響で食味は良好な仕上がりです。
輸入果実は輸送の不安定要素に加え、円安の影響を受け昨年同様入荷減の単価高での推移となります。

果実概況担当 丸果旭川青果卸売市場 取締役 和田 明（果実部直通48-3232・3233）

主品目	主力産地	前年対比		市況予想 (K g 単価)	概況
		入荷量	市況		
みかん	愛媛、静岡、和歌山、熊本	多い	並	600~400	12月に向けて出荷量増量、価格前年並み。
りんご	青森	並	高い	800~600	夏場の高温影響を受け少なかった昨年並みの出荷、単価高の見通しです。
いちご	栃木、宮城、福岡	並	高い	3000~2000	年末需要に向けて出荷量増量、単価高の見通しです。
干柿	長野、和歌山、山形、福島	並	並	3000~2500	出荷量平年並み、価格も平年並み
キウイ	和歌山、愛媛、ニュージー	並	並	750~600	年内は輸入品中心ですが、年明けより国産の出荷、出荷量は前年並みの見通し
バナナ	フィリピン、エクアドル	並	並	400~200	入荷量は前年並み、価格も前年並みの見通しです。
パイン	フィリピン	並	高い	300~250	入荷量は前年並み、輸送費等の高騰を受け単価高傾向です。
グレープフルーツ	フロリダ、メキシコ	減	高い	600~400	入荷不安定で少ない状況、単価高傾向です。
オレンジ	オーストラリア、アメリカ	並	やや高い	500~400	入荷量は前年並み、円安の影響でやや高い見通しです。